目的に沿ったプログラムが探せます！

JICA横浜 開発教育支援プログラム 対象者一覧

プログラム名 ＼ 対象者		小学生	中学生	高校生	大学生	教　員	一　般
JICA横浜訪問プログラム	P10	●	●	●	●	●	●
JICA国際協力出前講座	P12	●	●	●	●	●	●
JICA横浜研修員の学校訪問	P13	●	●	●	●	●	●
教師海外研修	P14					●	
開発教育教員セミナー	P16				●	●	●
JICA国際協力エッセイコンテスト	P17		●	●			
国際理解入門セミナー	P17			●			
JICAプラザ・ライブラリー	P19	●	●	●	●	●	●

● は対象となるグループ

〈お問合せ〉JICA横浜センター　市民参加協力課
〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1　TEL：045-663-3220　FAX：045-663-3265
E-mail：yictpp@jica.go.jp　URL:https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html　JICA 横浜　検索

JICA横浜のプログラム

開発教育支援事業のご案内

photo:JICA/Kenshiro Imamura

出会ってみよう！国際協力

世界を知り触れる授業に取り組まれる方へ

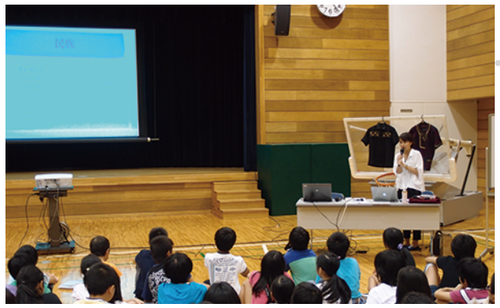
SDGs（持続可能な開発のための目標）を扱った授業作りを目指す方へ

学校や地域での国際理解、SDGsを扱った取組、主体的な学びの実践

教室から世界への扉を開くオススメメニュー

P4-7
世界の現状とJICA

P10-11
世界を知る!
JICA横浜訪問プログラム
開発教育/国際理解教育の一環として、校外学習や修学旅行などの訪問を受け入れます。



P12
体験談を聞く!
JICA国際協力出前講座
実際に開発途上国で、国際協力に携わってきたJICA海外協力隊の経験者等を講師として紹介しています。

P13
出会う!
JICA横浜研修員の学校訪問
開発途上国から日本に来た研修員が学校を訪問します。日本文化の紹介や踊り等を通じ、異文化を知る交流プログラムは子供たちにも人気です。

「世界を知って、考えて、行動しよう!」

グローバル化が進む世界では、地球に住む私たち自身が自らのライフスタイルを見つめなおし、国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。

JICA では、日本政府が行う開発途上国における国際協力事業で培った知見・経験・人材を活用し、日本の地域や学校の教育現場で「国際協力への理解と参加促進」「未来の地球を担う人材育成」を目的に開発教育支援事業を実施しています。

国際社会における開発問題を知り、自分で何ができるのかを考え、自ら行動できるグローバル人材の育成の一助として、JICA の開発教育支援事業をご活用ください。

P14
現場を見る!
教師海外研修
神奈川県・山梨県の教員(小・中・高・特支)を対象に、開発途上国の現状、日本との関係や国際協力への理解を深め、その成果を次代を担う子供たちの教育に役立ててもらうための研修です。

P16
授業に役立つ!
開発教育教員セミナー
開発教育/国際理解教育に関心のある先生方を対象に、開発教育の担い手育成を目的としたセミナー(基礎編(6月・12月)/応用編(1月))を実施しています。

P17
応募する!
JICA国際協力エッセイコンテスト
全国の中学生・高校生を対象に、国際社会の中で日本は何をするべきか、自分たち一人ひとりがどう行動するべきかについて考えてもらうことを目的としたコンテストです。

高校生向け!
国際理解入門セミナー
高校生を対象とした参加型学習プログラムです。途上国より来日している研修員との交流を通して、国際協力と世界についての理解を深めます。

P19
教室から“世界”を知る授業作りに
- JICAプラザ・ギャラリー展示
- 図書資料室
- Port Terrace Café

国際協力の必要性

なぜ、日本は開発途上国を援助するのでしょう？

相互依存の世界

日本は生活や産業に欠かせないエネルギーの約８割を、海外からの輸入に頼っています。また、食料自給率も40％を切り、穀物をはじめ、水産物、果実など多くを輸入に頼っています。このように、ヒト・モノ・カネが自由に往来する今日において、日本を含めた世界各国は相互に大きく依存しているのです。

途上国の問題は世界の問題

世界には開発途上国と呼ばれ、貧困や紛争といった問題を抱える国家が多くあります。それらの国では、衛生事情の悪化による感染症の蔓延や環境汚染、教育や雇用機会の不足が社会不安を招き、結果として、紛争につながる場合もあります。

こうした問題は、世界規模での環境破壊や感染症の蔓延、紛争問題の深刻化といった問題に発展する可能性もあり、途上国だけの問題ではありません。今日においては、自国だけの利益を追求するのではなく、これらの世界共通の問題へ取り組むことが求められています。

“受援国” としての日本の経験

日本は昔、戦後復興期には国際社会からの支援を受けていました。黒部第４ダムや東海道新幹線などの日本の経済発展に必要不可欠だった経済インフラ（経済基盤）は、世界銀行からの支援で建設されたものです。現在の日本の繁栄は、国際社会の支援がなければ、実現し得なかったものと言えます。

また、2011年の東日本大震災に際しては、250を超える国・地域、国際機関からの支援物資や支援金・義捐金等が届けられました。

世界の中の日本の役割

1954年、日本は国際社会への貢献の手段として政府開発援助（ODA）をスタートさせました。世界有数の経済大国である中、国際社会からは日本のさらなる国際貢献に対する期待が寄せられています。日本と開発途上国を結ぶ架け橋として、JICAは、日本の戦後復興の知恵と経験も活かしながら、開発途上国の自立と発展の支援に取り組んでいます。

もしも、地球に暮らす人が100人だとしたら・・・

開発途上国で暮らす人	82人	（約56億人）
1日1.25ドル以下の貧しい生活を送っている人	17人	（約12億人）
電気が使えない人	18人	（約12億人）
読み書きができない人	13人	（約9億人）
十分な栄養を取れない人	12人	（約8億人）
安全な飲料水が得られない人	11人	（約7億人）

出典：国際連合経済社会局人口部「世界人口推計2013年版」、世界銀行 貧困および公平にかかるウェブサイト、WHO、UNICEF「衛生および飲用水にかかる進捗レポート2013年版」、WHO グローバルヘルス展望にかかるウェブサイト、FAO「世界における栄養不良問題2012年版」、OECD/IEA 「世界エネルギー概観2012年版」、UNESCO「識字率データ2011年版」

（　　）内の数字は、世界人口に相当する実際の数値です。

国際社会が取り組む「持続可能な開発目標（SDGs）」

2015年９月に、国連は「ミレニアム開発目標（MDGs）」の後継である「持続可能な開発目標(SDGs)」を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択しました。

SDGsは、「誰一人取り残さない」を基本理念とし、2030年までに先進国含む国際社会が一体となって達成すべき目標を示しています。

JICAは、これまでの日本の知見・経験、60年に及ぶ開発協力の経験を踏まえ、SDGs達成に向けて取り組みを行なっています。

《SDGsを学ぼう!》

JICAのSDGsに係る取り組みについては、JICAのウェブサイトへ
https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/index.html

JICAの取り組み

日本と開発途上国を結ぶ架け橋として

JICAは、日本のODA実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。
「信頼で世界をつなぐ（Leading the world with trust）」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

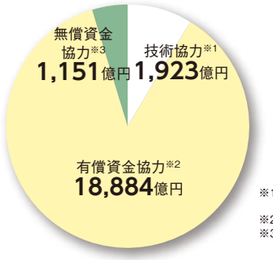
ODAとJICA

日本は、1954年にコロンボ・プラン[※1]に加盟して以来、「国際社会の平和と安定及び繁栄の確保により一層積極的に貢献すること[※2]」を目的に、政府開発援助（ODA：Official Development Assistance）として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」[※3]を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約90ヵ所にのぼる海外拠点を窓口として、世界約150の国・地域で事業を展開しています。

*1 コロンボプラン：南アジア、東南アジア、太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。
*2 2015年2月策定、開発協力大綱より。
*3 機動的な実施の確保その他外交政策の遂行上の必要に基づき、外務大臣が自ら行うものとして指定する無償資金協力を除く。

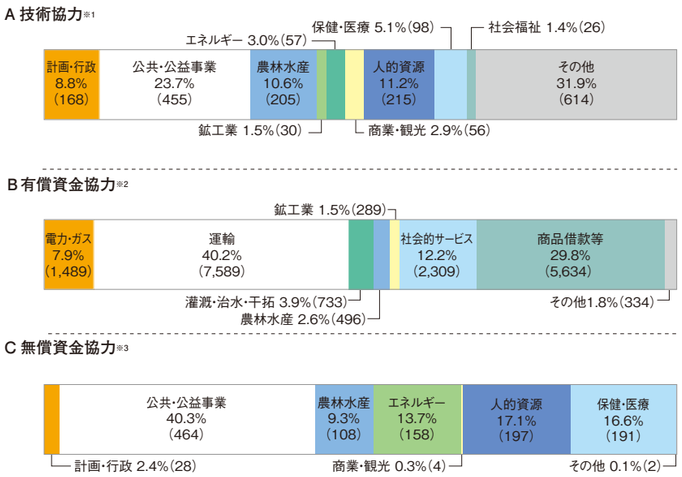
■2017年度JICA事業規模



※1 有償資金協力勘定予算による技術支援等を含み、管理費を除く技術協力経費実績
※2 円借款、海外投融資（貸付・出資）の承諾額
※3 贈与契約締結額。ただし、複数の会計年度に及ぶ案件については、各会計年度の供与限度額を計上

ODA（政府開発援助）
- 二国間援助 → JICA
- 多国間援助 → 国際機関への拠出

■分野別の2017年度実績構成比（単位：%/億円）



（注）四捨五入の関係上、合計が一致しないことがあります
※1有償資金協力勘定予算による技術支援等を含み、管理費を除く技術協力経費実績
※2 円借款、海外投融資（貸付・出資）の承諾額
※3 贈与契約締結額。ただし、複数の会計年度に及ぶ案件については、各会計年度の供与限度額を計上。

技術協力

パレスチナでの母子保健支援

開発途上国の人材育成、制度構築のために、専門家の派遣、必要な機材の供与、途上国人材の日本国内外での研修などを行う事業です。開発途上国の幅広い課題に対応するため、協力内容をオーダーメイドに組み立てています。

研修員受入

日本で廃棄物処理技術を学ぶ研修員

開発途上国の行政官、技術者、研究者などを日本に招き、中央省庁、地方自治体、大学、民間企業、NGOなどの協力のもと、日本固有の専門知識や技術を伝え、各国の課題解決に役立ててもらっています。

技術協力専門家派遣

ブルキナファソでデジタル地図作成を指導する日本人専門家（左端）

専門家を開発途上国に派遣し、経済・社会開発の担い手となる行政官や技術者などに対し、その国の実情に合った技術を指導し、提言を行うことで、人づくりや組織・制度づくりを促進しています。

有償資金協力

ケニアでのモンバサ港開発事業

比較的緩やかな融資条件で、開発途上国に対して資金を供与することにより、その成長・発展を下支えしています。

円借款　開発途上国を対象に、長期返済期間・低金利という緩やかな条件で開発資金（円貨）を貸し付けるもの。様々な国・地域において、多額の資金を要する大規模なインフラ整備が実施されています。

海外投融資　民間セクターを通じた途上国の開発促進のため、途上国において民間企業等が実施する開発事業を出資、融資により支援するものです。

無償資金協力※

※外交政策の遂行上の必要から外務省が引き続き自ら実施するものを除く。

カンボジアでのネアックルン橋梁建設

所得水準が低い開発途上国を対象に、返済義務を課さずに開発資金を供与するもの。学校、病院、井戸、道路などの基礎インフラの整備や医療機材や教育訓練機材などの調達にあてられます。

国際緊急援助

ネパール地震にて活動する国際緊急援助隊

海外で大規模な災害が発生した場合、被災国政府や国際機関の要請に応じて、日本政府の決定のもと国際緊急援助隊を派遣します。被災地では被災者の捜索や救出、怪我や病気の診療、災害からの復旧活動に取り組みます。また、被災地に毛布やテント、医薬品などの物資供与も行います。

調査・研究

JICAは、「JICA研究所」の3つのミッションのもと、途上国の開発課題の解決と、それを支援するJICA事業戦略への貢献を目指した研究を行っています。
①政策志向の学術研究と国際開発潮流のリード
②途上国の開発課題の分析とJICA事業戦略への貢献
③国内外への発信強化とわが国のプレゼンス向上

市民参加協力

JICA地球ひろば

JICAは、青年海外協力隊派遣などのボランティア事業をはじめ、JICA基金による寄付金の運営や開発途上国が抱える課題への理解を深めるための開発教育（国際理解教育）支援を実施しています。そのほか、NGO、自治体、大学などによる国際協力活動への参加を支援し、様々な形で連携しています。

年間を通し、JICA横浜プログラムを 活用してみませんか?

川崎市立橘高等学校の鶴嶋先生は、高校1年生を担当していた2014年度に教師海外研修に参加。
その後、持ち上がりで生徒を受け持ち、3年間に渡りJICA横浜プログラムを活用頂きました。
その取組を紹介します。

■ 1年目の主な取組(対象:高校1年生)

4月 教師海外研修に応募

5月 教師海外研修に合格!

6月 開発教育教員セミナー(基礎編)

前年度、教師海外研修に参加された先生の学校現場でのリアルな実践報告を聞いたり、改めて「開発教育とは何か?」ということをワークショップを交えて学びました。

7月 国内事前研修

研修の意義を再確認するとともに、訪問先の文化や宗教を尊重・理解する姿勢の大切さについての講義を受けました。一緒に参加する先生方の年齢や経験年数も様々!

JICA横浜訪問プログラム

国際協力・途上国理解のために毎年訪問しています。生徒の中にはエッセイコンテストへの応募を考えているものもいるので、移住資料館を見学したり、協力隊経験者の生の声を聞ける機会は貴重です。

8月 タンザニアでの海外研修 8/11~21

様々なプロジェクトに関わる日本人の専門家や協力隊員たちから、熱い想いと、生徒たちに伝えたいものをたくさん持って帰ることができました。特に昨今のイスラム文化への偏見を招きかねない状況の中、ザンジバルのイスラム教徒の家庭にホームステイをし、子どもたちと温かな交流ができたことは、特別に意味のある体験になりました。

9月 JICA国際協力エッセイコンテストに応募

10月 タンザニアでの経験をもとに授業を開始!

アフリカにおけるビジネスプランを構築するというお題を立て、生徒たちに国や地域の特性を再認識させる。グループワークにすることで個々の個性を引き出す授業を10時間かけて行いました。

11月 国際協力出前講座/研修員の学校訪問プログラム

JICA横浜滞在中の研修員さんを学校に招き、書道や茶道、けん玉や折り紙などの日本文化を通して交流しました。

1月 実践授業の成果

授業実践の最後に、生徒によるアフリカビジネスプランの発表が行われました。

開発教育教員セミナー(応用編)

授業実践の経験を生かし、セミナー参加者とともにワークショップを作成しました。

2月 研修報告会 (よこはま国際フォーラム)

■ 2年目の取組(対象:高校2年生)

国際協力エッセイコンテスト、研修員の訪問プログラム、JICA横浜訪問を活用。学習の成果として、アフリカでのビジネスプランを考え、英語でのプレゼンテーションを実施。さらに他科(普通科・スポーツ科)生徒への生徒自身による出前講座につながりました。

■ 3年目の取組(対象:高校3年生)

研修員の訪問プログラムを活用。学校として国際協力エッセイコンテストへの応募。学習の成果として、生徒がそれぞれ関心を持った課題について研究し、英語でのプレゼンテーションを行いました。

JICA横浜のプログラムを活用し、効果的な授業を実践している鶴嶋先生に活用の効果を聞きました。

プログラムを活用して…。 川崎市立橘高等学校 鶴嶋 麦先生

1年生で初めてJICA横浜を訪問した時には、国際緊急援助隊の展示に憧れを抱いていただけの生徒たちが、研修員の学校訪問プログラムで異文化交流を深め、エッセイコンテストを通して問題提起の大切さを学びました。私のアフリカでの派遣研修を踏まえて行ったビジネスプランや2年生の冬に実施した集中ワークショップにより、自ら発信し実際に行動を起こす頼もしい若者へと成長してくれました。他科生徒への生徒自身による出前講座は下の学年に引き継がれ、ビジネスプランも今年度は実際に企業への提案型へと進化しています。

JICA横浜 訪問プログラム

国際協力や異文化への興味を促し、日本と世界のつながりに気づくことを目指したプログラム。その他、将来の職業を考えるキャリア教育に関する講義や移住者や日系人の現地での苦労・経験を学ぶことで、身の回りの多文化共生を考えるプログラム（海外移住資料館）も用意しています。

活用法

社会見学　修学旅行　総合的な学習　探究的な学習　キャリア教育
社会、道徳の授業など

■ 内　　容　90～120分を基本として用意していますが、ご要望に応じてさまざまなバリエーションが可能です
- 世界の国・JICAの活動について知ろう!
- ボランティアOB・OGによる体験談
- 参加型ワークショップ
- 国際協力の仕事について
- SDGsについて
- 海外移住資料館の見学

■ 対　　象　学校など教育機関（校外学習や修学旅行、大学のゼミ等）、自治体や市民団体など

■ 人　　数　100名程度まで（応相談）

■ 実 施 日　通年、月曜日（祝祭日と重なる場合は翌日）と年末年始を除く

■ 費　　用　無料（特別なご要望がある場合には、講師への謝金（講師1名あたり4,600円／1時間、及び交通費実費）が必要となる場合があります）

■ 申込方法
- JICA横浜訪問プログラムHPで訪問受付予約カレンダーを確認（「JICA横浜訪問プログラム」で検索）。1ヶ月前までに電話で仮予約（045-222-7161）
- JICA横浜訪問プログラムHPにある「訪問プログラム依頼書」に必要事項を記入の上、メール、FAX、郵送で送付

海外移住資料館

日本人の海外移住は100年以上の歴史を重ねてきました。今よりもずっと海外が遠かった時代に夢を抱いて新天地でたくましく生きた移住者たちの姿には、現代の私たちが学ぶべきことがたくさんあります。海外移住資料館では、移住者の足跡や日系社会を多くの人々に伝えるべく、各種資料の展示と学習教材の提供を行っています。

活用法

社会見学　修学旅行　総合的な学習　探究的な学習
社会、道徳の授業など

■ 内　　容　左ページ「JICA横浜訪問プログラム」と合わせて、90～120分を基本として用意していますが、ご要望に応じて様々なバリエーションが可能です。

■ 対　　象　学校など教育機関（校外学習や修学旅行、大学のゼミ等）、自治体や市民団体など

■ 人　　数　100名程度まで（応相談）

■ 実 施 日　通年、月曜日（祝祭日と重なる場合は翌日）と年末年始を除く

■ 費　　用　無料（特別なご要望がある場合には、講師への謝金が必要となる場合があります）

■ 申込方法
- 左ページ参照

学習プログラム

授業づくりのための参考資料「学習活動の手引き」、移住をテーマにしたカルタや紙芝居、移住者の持ちものを集めたいみんトランクなどの教材を用意し、貸出も行っています。館内でのワークショップも対応しています。

JICA 国際協力出前講座

途上国で国際協力に携わってきたJICA海外協力隊OB・OGや、JICA専門家のJICA職員などを講師として紹介します。現場で活躍した人材だからこその貴重な体験談やエピソードをお届けします。

活用法

- 総合的な学習
- 探究的な学習
- キャリア教育（国際協力の仕事とは）
- シチズンシップ教育
- テーマ学習（人権教育、平和学習など）
- 教員研修（参加型ワークショップやアクティブラーニング）

■ 内　　容　ご希望のテーマや内容に応じて講師を紹介します
- 世界の現状、SDGsについて
- 途上国での活動体験
- 具体的なテーマ（例えば教育、環境など）についての体験談、講義
- 民族衣装の紹介や歌や踊りクイズを盛り込んだワークショップ

■ 対　　象　小中高大等の教育機関、自治体、教育委員会、市民団体等

■ 実 施 日　通年（実施日、講演時間ともにご希望により調整可能）

■ 費　　用　講師の謝金・交通費につきましては、原則としてお申込み団体のご負担をお願いしています。謝金については、学校や自治体における講師謝金単価基準がある場合は、そちらに基づきご相談ください。単価基準がない場合は、目安としては一人当たり1時間4,600円（JICA規定に基づく）です。

■ 申込方法
- 講演希望日の2ヶ月前までに、まずは電話にて申し込み（神奈川県：045-222-7161、山梨県：055-228-5419）
- JICA横浜国際協力出前講座HP内にある「講師紹介要請書」を記入の上、郵送かファックスで送付してください（「JICA横浜国際協力出前講座」で検索）

JICA横浜 研修員の学校訪問

JICA横浜では、開発途上国からの研修員を毎年合わせて約800名受け入れています。生徒や教員の皆さんと研修員とが直接交流する機会を提供することによって、開発途上国に対する理解や国際協力・異文化について考えるきっかけづくりとなるプログラムです。

活用法

- 英会話の実践学習（英語を使ってインタビュー）
- 日本文化の紹介、世界の現状や異文化理解の学習など（社会科・総合的な学習・探究的な学習）

■ 内　　容　学校が企画するプログラムへ、開発途上国から国づくりに必要な技術を学ぶために来日中の研修員を派遣します（企画及び実施は、依頼団体側でしていただきます）

■ 対　　象　神奈川県内の小学校・中学校・高校・大学

■ 実 施 日　JICA横浜研修員の学校訪問プログラムHPに、実施日を掲載しています

■ 費　　用　無料

■ 申込方法
- HPの予約表を確認の上、電話で予約（045-222-7161）（HPは「JICA横浜 研修員の学校訪問」で検索）
- HPの申込書に必要事項を記入の上、FAXまたはメールで送付
- HPの計画書を提出してください
- JICA横浜のバスで研修員が訪れます。JICAスタッフも同行します。

国際協力の現場を訪ねてみませんか?
教師海外研修

校種の違う先生方がチームになって、国際協力の現場で途上国の現実を体験します。多彩な経験から学びと感動を持ち帰り、授業に役立ててもらうプログラムです。

活用法

総合的な学習　探究的な学習　グローバル教育　国際理解教育　主体的・対話的で深い学び

■ 内　　容　開発途上国の社会・教育事情や様々な国際協力活動の現場訪問と、学校での国際理解教育に役立てていただくための事前事後の国内研修を組み合わせた総合的なプログラムです。

■ 対　　象　神奈川県・山梨県内の小学校・中学校・高等学校に勤務する教員

■ プログラムの流れ

※派遣国･応募資格･参加条件･費用などに関しては、募集要項をご覧ください

3月	募集要項(HPに掲載します)
5月上旬	応募締め切り
5月中旬～6月中旬	書類審査、面接
6月･7月	派遣前研修
7月下旬～8月中旬	海外研修(10日間程度)
8月下旬～9月上旬	派遣後研修
9月～	神奈川県教育委員会報告会(9月上旬)(神奈川県ご所属の先生のみ) 学校での授業実践
1月	開発教育教員セミナー(応用編)
2月	実践報告会

ご希望の方には
募集要項を送付します!
詳しくは045-663-3220まで
お問い合わせください。

Asante!の紹介

フィールドは世界!

Asante!とは?

Asante!は、JICA横浜のプログラムである、「教師海外研修」参加者を中心に設立した団体です。現在は青年海外協力隊出身の方や、一般の方など、幅広い方たちを中心にJICA横浜で活動しています。

Asante!は、子どもたちを対象にワークショップを行っています。ワークショップには小学生･中学生が参加し、世界で起こっている様々な出来事について考えます。子どもたちが主役のNGO!それがAsante!です。

2019年度の活動

今年度はSDGsやカンボジアの事例を通して、子どもたちは世界の事を学びました。ワークショップでは、地雷探知機の開発をしている東北大学の佐藤源之教授をゲストとしてお招きし、最新の地雷探知機をお持ちいただき、子どもたちが実際に触りながらお話をしていただきました。子どもたちは佐藤教授のお話を通して考えたことをグループごとに話し合いました。互いに意見を出し合い、まとめ上げていくことを通して、地雷探知機の開発によってもたらされる事をSDGsに結び付けて考えることができました。

2月に行われた「よこはま国際フォーラム2020」にて活動報告を行い、子どもたちの学びの成果を、ゲストのみなさんに発表する事ができました。

Asante!では、SDGsについての学びも行っています。国際都市、横浜だからこそできるSDGsのあり方を、日本全国に発信してまいります。

横浜市立岡津小学校
主幹教諭　井上 文裕

授業に役立つ新しい学びをつくろう!

開発教育教員セミナー

国際理解教育って? 開発教育ってどんな授業をすればいいの? そんな先生方を対象に、国際理解教育・開発教育の参加型学習の基本的な考え方や手法を学ぶセミナーです。

- ■内　　容　ワークショップ体験・参加型手法の紹介・実践報告・意見交換等
  ※毎年内容は異なります。詳細はホームページをご確認ください。
- ■対　　象　小中高等学校の教員、国際理解教育に関心があるNGO・教育関係者など
- ■人　　数　40名ほど
- ■実 施 日　基礎編（6月・12月）／応用編（1月）
- ■費　　用　無料（交通費、昼食代は参加者負担）
- ■申込方法　応募用紙に記入の上、FAXまたはメールで送付ください

応募用紙は「JICA横浜開発教育教員セミナー」で検索

■セミナーの内容（例）

- 基礎編：開発教育の基本を扱います
  - ・国際協力や開発教育の基礎知識講座
  - ・参加型ワークショップの体験
- 応用編：毎年、異なるテーマを深め、教材作成を行います。
  - ・テーマに沿った国際協力や開発教育の応用講座
  - ・テーマに沿ったワークショップ体験
  - ・グループで教材づくりにチャレンジ
    （これまで、難民、多文化共生、人の移動、グローバル人材（人財）などを扱いました）

参加者の声

・初めに理論的なお話を聞いて、全体のイメージをつかむことができ、その後のワークショップで具体的な理解がすすみました。

・講義、体験、実践報告と授業を考えて実践していく流れを体験的に学ぶことができて、とても良かったです。

・基本的な知識の部分から実践のポイントまで学ぶことができ、自分が普段、目の前にしている子どもたちにどんな授業ができるか考える材料が増えました。

自分にできることってなんだろう?

JICA国際協力エッセイコンテスト

全国規模のコンテストです

▶夏休みの宿題に　▶国語の作文指導・小論文対策に　▶社会科の地球規模の課題の学習として

- ■対　　象　全国の中学生・高校生
- ■内　　容　毎年のテーマに従って、学校で習ったことや自分自身の体験・発見を題材にした作文エッセイです。
- ■　　賞　上位入賞者には海外研修旅行を授与　※詳細は募集要項（HPに掲載します）をご覧ください

体験してみよう！国際協力と私たちの関わり

国際理解入門セミナー

高校生対象の参加型のプログラムです

▶世界の現状や課題について学びながら、私たちは何ができるかを考えます

▶開発途上国から来日している「研修員」との交流を通して、世界についての理解を深めます。

- ■対　　象　神奈川県内の高校生
- ■時　　期　12月～1月（詳細はHPをご覧ください）
- ■内　　容　参加型ワークショップ、研修員や元青年海外協力隊との交流会・ディスカッション

各プログラムの 参加者の声

JICA横浜 訪問プログラム

参加者の声

・自らの経験を話していただいたので、説得力があってとても身近に感じた。援助することは自分もその社会に身を置いて、現地の人と同じ目線で関わることが大切だと感じた。
・世界における日本の存在の大きさを知った。日本は世界の平和にとって、大変大きな役割をもっているのだと感じた。

JICA国際協力出前講座

参加者の声

・ケニアの人はわずかなお金を稼ぐために一生懸命に働いています。でも、彼らは自然の多いところでのびのびと遊ぶことや工夫する心など、とても大切なものを持っていると思いました。
・青年海外協力隊の活動は決して楽ではなく、辛いことも多く直面するけど、得るものも本当に大きい活動なんだと感じました。大切なことを教えていただいて感謝しています。

教 師 海 外 研 修

参加者の声

教員が実際に見て、感じ、考えたことを伝えることの大切さを痛感した。現在は情報社会であり、インターネットで検索をすれば、すぐに欲しい情報を手に入れることができる。しかし、それは側面であり、実際に暮らす人々の生活や実態が分かるものではない。私の今回の視察も限られた一部分であったかもしれないが、私が現地で出会った人々の話を中心に授業を展開した。そうすることで、子供たちは現実の社会を知り、世界と自分のつながりを強く感じることができたのではないかと思う。

教室から"世界"を知る授業づくりに

JICA横浜には教材が沢山!ぜひ、活用してみませんか?

1F・2F

JICAプラザ展示(ギャラリー)

国際協力に関する写真展や企画展を開催しています。
また、世界について「見る、読む」だけではなく、「さわる、参加する」ことができる展示を行っています。

2F・3F

回廊・展示室

2階ギャラリー及び3階展示室を国際協力に関する展示に限り、市民の皆様に貸し出しております。

2F

ライブラリー(国際協力・海外移住)

国際協力や開発教育・海外移住に関する図書と映像資料(あわせて約10,000点)を所蔵しています。

3F

Port Terrace Café

エスニック料理や民芸品(店頭で販売)を用意しています。訪問学習と合わせてご活用ください!
【昼食】11:30〜14:00
【喫茶】14:00〜17:00(土日祝祭日のみ)
【夕食】17:30〜21:00